

令和 5 年 11 月 10 日

令和 5 年度モーダルシフト取り組み優良事業者の受賞者を決定しました ～大賞は佐川急便株式会社と全国通運株式会社のW受賞～

(一社) 日本物流団体連合会 (真貝康一会長) (※1) は、「令和 5 年度モーダルシフト最優良事業者選定委員会 (委員長: 竹内健蔵 東京女子大学教授)」を開催し、「モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」(※2) の受賞者を決定しました。

モーダルシフト最優良事業者賞 (大賞) は、佐川急便株式会社による『飛脚 JR 貨物コンテナ便』と、全国通運株式会社による『卸売業者と複数の小売業者の連携による鉄道貨物へのモーダルシフト』が受賞しました。大賞に 2 社が選定されるのは 7 年ぶりのことです。

佐川急便の取り組みは、全国約 26,000 人のセールスドライバーが、トラックだけでなく鉄道コンテナの貸切営業も行うことにより、鉄道を使用したことがない中小企業を含めて、様々な客層に販路を広げている点が高く評価されました。

全国通運の取り組みは、卸売業者と複数の小売業者と連携して小口配送していた商品を集約し、元来鉄道輸送を行っていなかった商品も輸送できるようになったことで、環境負荷低減だけでなく、農林水産物・食品等における持続可能な物流に大きく貢献した点が高く評価されました。

表彰式は 11 月 21 日 (火) に東京プリンスホテルにて開催されます。

物流連は 2024 年問題を目前に控え、今後ますます重要性を増すモーダルシフトについて、幅広く普及促進するために活動を続けてまいります。

事務局 島田

※1 「一般社団法人 日本物流団体連合会 (略称: 物流連)」

陸・海・空の物流事業者が広く結束し、物流業に係わる横断的課題について施策を確立し、これを推進すること等により物流業の健全な発達に資することを目的として、1991 年に発足しました。

現在の会員数は、正会員 97 社賛助会員 46 社の合計 143 社となっています。

物流業界の発展のため、モードや業界の垣根を越えて意見を取りまとめ、提言や諸活動を行っています。

(参考) ホームページ: <https://www.butsuryu.or.jp/>

検索:

※2 「モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」

2003 年から行っている取り組みであり、モーダルシフトの促進を図るため、モーダルシフトを積極的に推進した優良な物流事業者を公表・表彰しています。2014 年からは最も秀逸な成果を達成した物流事業者に対し「モーダルシフト最優良事業者賞 (大賞)」を選定することとし、「大賞」の選定は今回で 10 回目となります。

令和 5 年度モーダルシフト取り組み優良事業者

公表・表彰の概要

1. モーダルシフト最優良事業者賞（大賞）

被表彰者：佐川急便株式会社

功績事項：飛脚 JR 貨物コンテナ便

佐川急便（株）は、宅配便では取り扱いが困難な大きい荷物や、一度に大量の荷物を送りたい場合に、鉄道輸送に切り替え、お客様に安定的に提供できる輸送サービスを構築した。ビルや狭路など鉄道コンテナが進入できない場所においても、通常のトラック輸送を活用し、貨物駅近隣の佐川急便営業所や貨物駅構内の積替ステーションでコンテナに積み替えることが可能。サービスは 12 フィートコンテナを扱う全国の鉄道貨物 125 駅（積替ステーションはそのうち 16 駅）を利用することができる。

全国約 26,000 人のセールスドライバーが、トラックだけでなく鉄道への貸切営業も行うことにより、受注数はサービスを開始して 1 年間で数千件にのぼる。鉄道を使用したことがない中小企業を含めて、様々な客層に販路を広げている。12 フィートコンテナに荷物が積みきれない場合でも、飛脚宅配便とのコンビネーションにより柔軟な輸送を可能とする。

トラック幹線輸送を鉄道に切り替えることで、各輸送における CO₂排出量を 80%以上削減することができ、環境負荷低減と、安定的で持続可能な輸送の範となる取組みとなっている。

被表彰者：全国通運株式会社

功績事項：卸売業者、小売業者と連携した鉄道貨物輸送への転換

全国通運（株）は卸売業者と複数の小売業者と連携して小口配送していた商品を集約し、トラック輸送から鉄道輸送に転換した。物流を集約することで、個々の小売り業者では利用の難しかった鉄道輸送が可能となり、元来鉄道輸送を行っていなかった商品も輸送できるようになった。

小売業者各社がそれぞれ調達し、注文があるたびに個別少量配送していた輸送を、複数の小売業者で協議会を作り、お互いに物流・商流をデータ化、配送を「見える化」して集約配送ができるように調整を行った。

卸売業者（株）シジシージャパンが主体となって全国の産地から 12 フィートコンテナに商品を積載し全国の加盟企業へ発送、またスーパーの店頭でも POP にて鉄道輸送で商品を調達していることを消費者にアピールしており、環境負荷低減だけでなく、農林水産物・食品等におけるより強靱な物流ネットワーク構築の範となる取組みとなっている。

2. モーダルシフト取り組み優良事業者賞

① 実行部門

被表彰者：山九株式会社

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が 40%超を達成。

山九（株）は、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率が 40%超を達成した。

被表彰者：日本通運株式会社

功績事項：全社的な幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が 40%超を達成。

日本通運（株）は、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率が 40%超を達成した。

② 改善部門

該当なし

③ 新規開拓部門

被表彰者：SBS東芝ロジスティクス株式会社

功績事項：照明機器の鉄道モーダルシフトを実現

SBS東芝ロジスティクス（株）は、千葉県から大阪府への照明機器輸送について、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実現した。

CO2 排出量削減ならびにドライバーの負荷軽減を鑑み、東芝ライテック（株）の商品の拠点間輸送を 6 割程度から波動変動分を除く 9 割程度まで鉄道輸送へ転換した。本取り組みでは関東から関西に空で回送していた JR31 フィートコンテナを活用できたことで、コンテナラウンドユースも実現している。

被表彰者：NRS 株式会社

功績事項：化学製品の中距離鉄道輸送へのモーダルシフトを実現

NRS（株）は、兵庫県から静岡県への化学製品輸送において、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実現した。

300km 強の中距離輸送であるにもかかわらず、荷主から環境負荷の軽減や 2024 年問題の解決に対する大きな期待が寄せられ、その結果、モーダルシフトを実現。これにより、年間 73% の CO2 排出量削減ならびにトラックドライバーの負担軽減を実現した。

被表彰者：株式会社 タイセイ

功績事項：氷菓の鉄道モーダルシフトを実現

（株）タイセイは、埼玉県戸田市に本拠を置く、タイセイグループ（14 社）の中核企業であり、冷凍冷蔵輸送に特化した輸送を行っている。主要取引先である赤城乳業（株）の埼玉県本庄市・深谷市の工場から全国への輸送を一手に引き受け、消費地へ冷凍輸送を行っている。

距離の遠い九州地区の一部を鉄道輸送に転換し、CO2 排出量の削減やドライバーの運転時間削減を実現した。元来トラック輸送の比率が高い九州地区の輸送を試験的にモーダルシフトし順調だったため、今年から岡山地区にも鉄道輸送を拡大した。

今後は東北、関西地区もモーダルへのシフトを行う予定である。

被表彰者：日本通運（株）

功績事項：小型家電・家具製品等の海上モーダルシフトを実現

日本通運（株）は、専門商社の福岡県と群馬県の小型家電・家具製品等の拠点間輸送について、トラック輸送から RORO 船を利用した海上輸送へのモーダルシフトを実現した。

同社の物流倉庫における拠点間輸送はトラックが主体であったが、CO2 排出量の削減ならびにドライバーの負担軽減を鑑み、海上輸送に転換した。現在、拠点間輸送の 9 割超が海上輸送に移行しており、今後毎週の定期的な運行を目指す。

④有効活用部門

被表彰者：山九株式会社

功績事項：3社の海上輸送へのモーダルシフトを実現

山九（株）は、3案件の海上輸送へのモーダルシフトを実現した。

1. 山口県から千葉県への THK（株）の精密機械部品輸送について、トラック輸送からトレーラーを利用した海上輸送に転換。転換にあたり福岡県と山口県の商品を新門司港に集約し、フェリー輸送することで年間 72%の CO2 排出量とドライバーの運転時間削減を実現した。
2. 岐阜県から佐賀県へのアルミテラ製缶（株）の製缶輸送について、トラック輸送から RORO 船を利用した海上輸送に転換。臭いや汚れを付着させないために専用シャーシを作成し、柔らかい製品に触れないよう専用の緩衝材を製品全面に当て固縛・発送する工夫を行い、年間 72%の CO2 削減と約 9800 時間のドライバー運転時間を削減した。
3. 広島県から千葉県への化学製品の輸送について、トラック輸送から海上輸送へ転換し、CO2 排出量削減ならびにドライバー負担軽減を実現した。ハイキューブ 20ft コンテナと薄型 14 パレットを使用することで、20ft コンテナに効率よく積載して輸送することにより、トラック輸送時と比較して年間運行回数を 25%削減した。

被表彰者：株式会社丸和通運

功績事項：紙製品の鉄道モーダルシフトを実現

（株）丸和通運は、茨城県から大阪府への紙輸送について、トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフトを実現した。

荷主の北越コーポレーション（株）の鉄道輸送に対するニーズ、販売需要予測を厳密に汲み取ることで、トラック輸送と比較してリードタイム+1 日で鉄道輸送に転換。輸送が堅調のため、現在は当初の倍量を増送し、エアバック等の資材返送も週 1 回鉄道で行っている。

以上